

ナガエアワゴケ *Callitriche deflexa* の帰化

会長 勝山輝男

アワゴケ *Callitriche japonica* は本州～琉球、中国～インドに分布し、住宅の庭や路傍などの裸地に生える超小型の1年草で、茎は分枝して地面を這い、径1～5cmのマット状に広がり、長さ2～6mmの葉を対生する。1980年代以降、神奈川県では北アメリカ原産のアメリカアワゴケ *C. terrestris* が帰化し、市街地や住宅地などのアワゴケと同じような環境に生育する。『神奈川県植物誌2018』の分布図ではアワゴケは平地～丘陵地全体に広く分布し、アメリカアワゴケも横浜、川崎、相模原、湘南地域などに広がっている。

最近、Koga et al. (2024) はアメリカアワゴケと同定されていた植物の中に南アメリカ原産でオーストラリア、ヨーロッパ、アフリカ、台湾に帰化している *C. deflexa* が含まれていることに気づいた。特に西日本でアメリカアワゴケと同定されていたものはすべて *C. deflexa* となった。生植物および標本から、茨城県、東京都、神奈川県、三重県、大阪府、兵庫県、福岡県、沖縄県への帰化記録が明らかになった。和名は果実に長い柄があることからナガエアワゴケと名付けられた。『改訂新版 日本帰化植物写真図鑑2』(植村まか、2015) 195ページに掲載されている大阪府枚方市で撮影された“アメリカアワゴケ”の写真はナガエアワゴケのものである。アワゴケ、アメリカアワゴケ、ナガエアワゴケの写真が揃っており、その違いがよくわかる。

日本へのナガエアワゴケの帰化記録は1999年の沖縄県がもっとも古く、本土では2011年の三重県が古い。神奈川県では2016年に大和市で記録され、2022年に横浜市保土ヶ谷区でも採集されている。1999年の沖縄県(KPM-NA0116625)、2011年の三重県(KPM-NA0203540)、2016年の大和市(KPM-NA0208310)の標本は生命の星・地球博物館所蔵のもので、神奈川県植物誌調査会の故松本雅人さんが採集された標本であった。私も松本さんに標本を見せていただき、果実が下向きに長い柄を伸ばすことから“ジモグリアワゴケ”と仮称されていたことを憶えている。

アメリカアワゴケの標本のうち、ナガエアワゴケと同定変更されたものを除くと、アメリカアワゴケの帰化記録は神奈川県と茨城県(つくば市)に限られてしまう。アメリカアワゴケは

神奈川県に集中的に分布しているのだろうか。

2024年11月24日の横浜植物会例会は横浜市緑区四季の森公園で行われたが、そのアプローチで敷石の間に生えるアワゴケ属植物を観察した。残念ながら花や果実はついていなかった。『神奈川県植物誌2018』によると、アメリカアワゴケの発生は4～7月に限られるという。一方、ナガエアワゴケは2月など冬季にも発生する(Koga et al., 2024)。四季の森のアプローチで観察された植物はアメリカアワゴケ、ナガエアワゴケのいずれであろうか？

以下にアワゴケ、アメリカアワゴケ、ナガエアワゴケの果実期標本による検索表を示す。

- A. 果実は基部が少し狭くなり、ほとんど無柄……アワゴケ
- A. 果実の基部は狭くならず、長さ0.5mm以上の柄がある
 - B. 果柄は長さ1mm以下、果実の稜には翼がなく、花柱は果実より著しく短い……………アメリカアワゴケ
 - B. 果柄はときに長さ1mm以上になり、果実の稜には狭翼があり、花柱はときに果実と同長……ナガエアワゴケ

文献

Koga, H., Y. Doll, W. Ohnishi and H. Tsukaya, 2024. First records of non-native species *Callitriche deflexa* (Plantaginaceae), which was previously misidentified as *C. terrestris* in Japan. *Biodiversity Data Journal* 12: e115142.

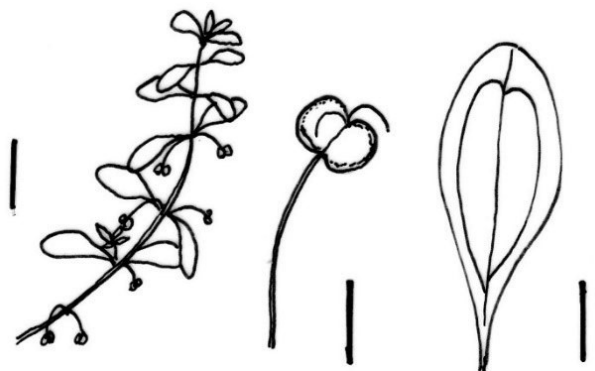


図 ナガエアワゴケ

左:植物体の一部(スケールは5mm) 中央:果実(スケール1mm)
右:葉(スケール1mm)